

「気候変動監視レポート2023」を公表します

気温、降水量、海面水温等の気候変動に関する諸要素について、2023年までの日本と世界における最新の観測成果等を総合的にとりまとめた「気候変動監視レポート2023」を公表します。

本レポートは、社会・経済活動に影響を及ぼす気候変動に関して、日本と世界の大気、海洋等の観測及び監視結果に基づいた最新の情報をまとめた年次報告で、1996年より公表して参りました。様々な分野で気候変動対策に取り組む際の基盤的な観測情報として、また理解の一助として御活用ください。

令和5年（2023年）7月には、グテーレス国連事務総長が「地球沸騰の時代が到来した」という言葉で、気候変動に対する強い危機感を訴えるなど、気候変動への対応は喫緊の課題です。

今般、2023年の状況を取りまとめた「気候変動監視レポート2023」を公表しました。本レポートは、以下の2つのトピックス

- ・「2023年7月後半から8月にかけての顕著な高温」
- ・「2023年の日本近海の記録的な海面水温について」

と2つの章「2023年の気候」「気候変動」で構成されています。

本レポートの全文は以下のURLからご覧いただけます。

掲載URL：<https://www.data.jma.go.jp/cpdinfo/monitor/index.html>

問合せ先：大気海洋部気象リスク対策課気候変動対策推進室
担当 笹野、町田
電話 03-6758-3900（内線 4112、4113）

気候変動監視レポート 2023 の主な内容

<トピックス>

I 2023年7月後半から8月にかけての顕著な高温

- 2023年夏は全国的に高温となり、特に7月後半からは北・東日本を中心に記録的な高温となった。7月下旬の平均気温は、北日本で1946年の統計開始以降1位の記録を更新したほか、東日本でも2位の高温だった。8月上旬の平均気温は、東日本日本海側と西日本日本海側で統計開始以降1位の記録を更新した。
- 7月後半の顕著な高温は、フィリピン付近で台風を含む積雲対流活動が活発だった影響で、日本付近で上層の亜熱帯ジェット気流が北偏して暖かい高気圧に覆われるとともに、下層の太平洋高気圧の張り出しが記録的に強まったことが主要因と考えられる。8月前半は、亜熱帯ジェット気流の北偏が顕著だったことに加え、台風第6号と第7号に伴って南寄りの暖かく湿った空気が日本付近に流れ込み続け、それにフェーン現象の影響も加わり、日本海側を中心に記録的な高温となった。
- 今夏の顕著な高温には、上記の要因に加え、持続的な温暖化傾向に伴う全球的な高温傾向の影響が加わったと考えられる。

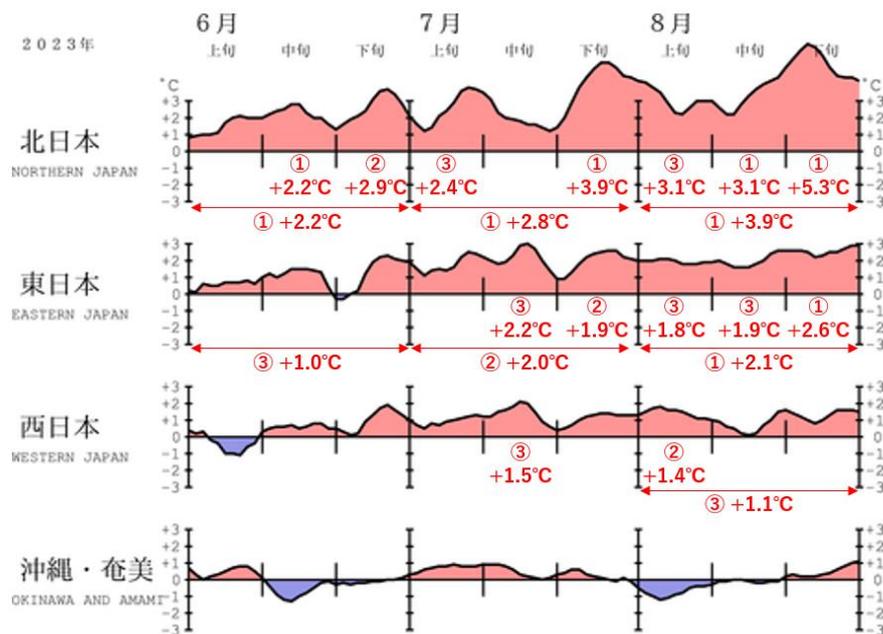


図 2023年6月～8月の5日移動平均した地域平均気温平年差の推移 (°C)

赤字の○数字と値は、各月及び旬における1946年以降の平均気温が高い方からの順位と平年差を表す(上位3位まで)。

<トピックス>

II 2023年の日本近海の記録的な海面水温について

- 2023年の日本近海の月平均海面水温は、年を通じて平年より高く経過し、特に北海道南東方海域・本州東方海域では記録的に高い状態が続いた。これは、日本付近が暖かい空気に覆われやすかったことに加え、日本の東では黒潮続流が三陸沖まで北上した状態が春頃から続いたことなどが要因として挙げられる。2023年の日本近海の年平均海面水温の平年差は、統計を開始した1908年以降、最も高い値となった。